

# すきなの街と自然

人と自然との出あいを大切に

第138号

令和8(2026)年2月

杉並区

環境部環境課

温暖化対策係



第8次自然環境調査で初確認したハチジョウツグミ

## 鳥類調査から見えてくること

文・写真 杉並区自然環境調査 鳥類調査員 中村忠昌

杉並区の自然環境調査報告書(第8次)が2025年3月に発行されました。また、報告書の内容を分かりやすくまとめた概要版も同時に発行されています。

詳しくはこれらの資料をご覧くださいのですが、ここでは私の担当した鳥類調査の内容について、補足的な話や、特に気になる鳥、そして調査後に発見した鳥のことをご紹介したいと思います。

### 1. 杉並区の鳥類調査の特徴

杉並区の鳥類調査方法が、昆虫類やクモ類、植物など他の分類群と異なる点は、個体数を記録していることです。例えば、ある調査地で、スズメが1羽の場合と、15羽いた場合で、その違いを記録して集計します。一方で昆虫類の調査では、ある調査地でシオカラトンボが1匹飛んでいても、100匹飛んでいても、「いる」というデータとなります。

このように書くと他の分類群の調査員の方々が楽をしているように誤解されそうですが、そうではありません。鳥類は、対象の種数が少なく、体サイズも大きいことや声での確認も容易な

ので、カウントしやすいのです。一方で、例えば植物で同じようなことをすると、「目の前すべてが植物」のような状態になり、各種の個体数など数えられるわけがありません。

なお、「どこまで厳密な数値か？」と言われると、移動しながら群れで動く鳥などでは 10 羽単位の大きな個体数になりますが、それでも大きな傾向はつかめます。

## 2. 個体数から分かること

報告書や概要版の鳥類のページには、過去8次までの調査で得られた個体数のグラフを載せています。ここで注意なのですが、第1次から第8次までのグラフの値は、区内の全個体数を示したものではありません。20 か所・12 か月の個体数をすべて合計したものです。そのため、単年度で見るとこの数値自体には大きな意味はありません。ただし、同じ調査地・同じ手法で調査した結果を第8次まで比較することで、各鳥類の区内における大きな生息状況が見えてくるのです。ここで重要なのは調査の場所・手法を変えないこと。これを変えてしまうと、せっかく長年続けてきた努力が途切れてしまうのです。私も、関わりはじめの時は「もっと鳥のいるエリアを調べた方がよいのに」と疑問に思いましたが、同じやり方を踏襲することで見えてくることのあるのです。

以下では、この個体数の比較により見えてきた、区内で減少傾向にある鳥についてお話したいと思います。

### (1) 区内で減った鳥：ツバメ

概要版には減少傾向にある鳥類として、マガモ、モズ、スズメ、ツバメ、カワラヒワ、ハシブトガラス(※)の6種が載っています。

この中で気になるのがツバメです。春先にやってくる<sup>なつどり</sup>夏鳥で、人家や店先などに巣を作って子育てすることは多くの方がご存じだと思います。その身近な鳥が、最も個体数の多かった第2次の頃と比べて、30年でおよそ1/5になっています。(図1)

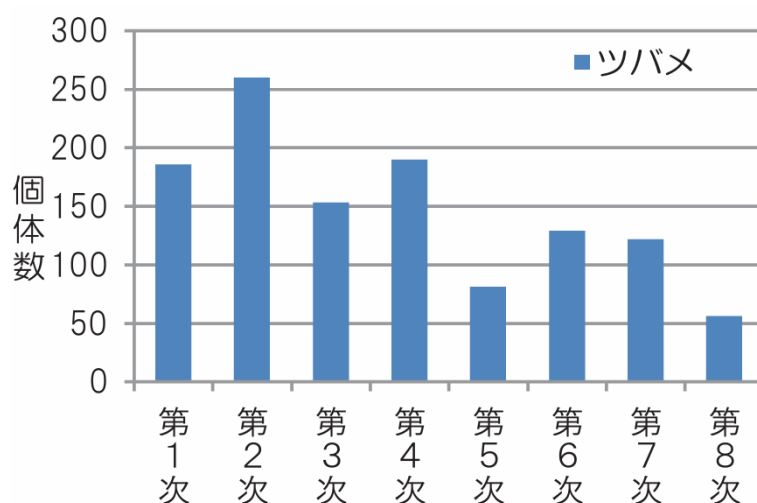


図1 ツバメの個体数の調査年度別の変化

概要版では減少の原因として、餌となる昆虫類が減ったことや、巣を作る場所がなくなっていることを記載したのですが、個人的には<sup>すざい</sup>巣材である泥が集めにくいことも理由かと疑っています。ここで皆さんに質問なのですが、お家の周りに、ツバメが泥を集められる場所はあるのでしょうか？道路はすべて舗装され、土がむき出しの空き地はなくなり、もちろん田んぼなどありません。ツバメたちは、<sup>かわどこ</sup>川床のわずかな土や、雨上がりの畑などで何とか泥を探していると思われまます。今後もこのような場所が減っていけば、ツバメはさらに減っていくでしょう。



ツバメの親鳥(左)と巣の中の雛(右)

1999年に、メダカが環境庁(当時)の<sup>ぜつめついきぐしゅ</sup>絶滅危惧種に指定されたとニュースになりました。このままでは、ツバメもその中に含まれてしまうかもしれません。私たちの暮らしには、舗装された場所の方が快適ですが、生き物たちのことを少し考えて、土の見える空間もなんとか確保していきたいものです。

※ハシトガラスについては不思議に思う方が多いかもしれませんが、第6次、第7次と個体数が多く、第8次でやや減少したので含まれています。

## (2) 区内で減った鳥:カイツブリ

カイツブリも減少傾向にある鳥です。小型の<sup>みずとり</sup>水鳥で、区内では<sup>ぜんぶくじこうえん</sup>善福寺公園の<sup>かみのいけ</sup>上池で見られます。報告書のグラフ(図2)を見ると、個体数は増減しながらも、全体の傾向としては減少しています。以前は、善福寺公園内で繁殖していましたが、第8次調査では繁殖期にはほとんど見られませんでした。

同じ都内のカイツブリというと、最近はいの<sup>かしらおんしこうえん</sup>かしら恩賜公園での子育てが有名で、NHKの番組にもなったほどです。そして、このカ



区内で減少しているカイツブリ

イツブリが繁殖するようになった大きな理由が、2014年に始まった「かいぼり」です。ここでは詳細を省きますが、この活動によってカイツブリの餌となる在来の魚や甲殻類こうかくるいが増え、また巢材となる水生植物も増えたのです。

善福寺公園での魚類の生息状況については把握できていませんが、「かいぼり」によって水辺の生物相せいぶつそうが改善され、カイツブリも増えるかもしれません。井の頭恩賜公園での活動をみると、予算や労力、準備などがかかりそうですが、いつかそんなプロジェクトが始まることを夢んでいます。

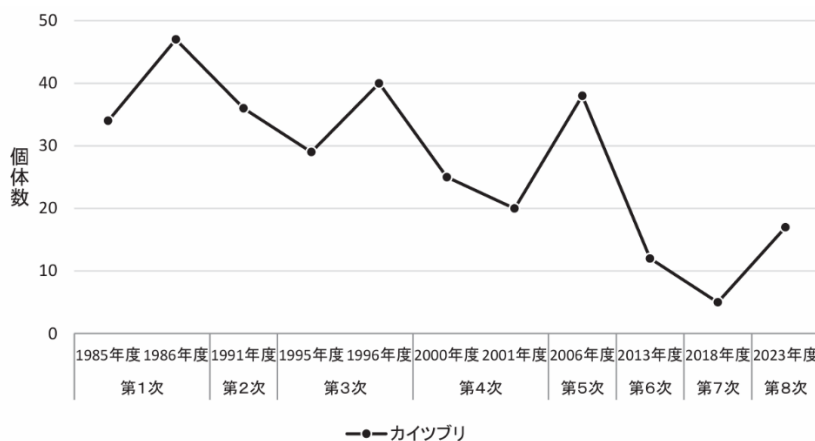


図2 カイツブリの個体数の調査年度別の変化

### 3. 自然環境調査では未確認の種

第8次までの自然環境調査で確認した鳥類は、外来種を含めて16目37科82種です。

だいぶ時間と労力をかけていますが、それでも過去に区内へ飛来している鳥類すべてが含まれるわけではありません。この理由は様々ありますが、鳥類は翼があり、長距離を飛べること、しかも渡りをする種も多く、その際に迷って遠方から飛来することが少なからずあるためです。さらに、そのような鳥はすぐに飛び立ってしまうことも多く、5年ごとに行う調査では把握が難しいのです。

ここではまだ自然環境調査では記録されていない鳥を少し紹介します。調査終了後の2025年2月、善福寺公園での野鳥観察会の際に、カンムリカイツブリとトモエガモという2種を見つけました。

このうちトモエガモは、オスの顔の模様が巴模様ともえもようのように見えることからその名が付いたと思われます。近年、千葉県いんばぬまの印旛沼で数万羽の群れが飛来するようになり、その「おこぼれ」のように周辺での記録が増えています。もしかしたら、区内の確認が増えるかもしれない鳥です。



善福寺公園で確認したトモエガモ(左)と千葉県印旛沼に飛来しているトモエガモの大群(右)

カンムリカイツブリは、区内でも見かけるカイツブリの仲間ですが、より大型です。都内には冬鳥として飛来します。旅立つ前の春先には、きれいな繁殖羽<sup>はんしよくう</sup>になりますが、頭頂から頬にかけての飾り羽<sup>かんまがり</sup>が冠<sup>かん</sup>のように見事なことが名前の由来です。

この鳥は、東京湾岸の葛西海浜公園<sup>かさいかいひんこうえん</sup>や多摩湖<sup>たまたこ</sup>のような広い水面を好み群れで飛来しますが、都内の公園や庭園の池にも時々飛来します。

#### 4. 区内や公園単位での目録作り

このように鳥類だけをとっても区内に飛来する種は、まだ十分に把握されていませんし、今後も増えていくと思われます。また、いままでに飛来した種も十分にまとめられてないと思われます。最近では区内で野鳥観察・撮影をされる方も多く見かけることから、一度皆さんの記録をまとめて目録を作るのもよいかもしれません。



2025年2月に善福寺公園で確認したカンムリカイツブリ



## 「すぎなみの街と自然」について

「すぎなみの街と自然」は、昭和 60 年より区民の皆様に広く区内の動植物を紹介する広報紙として、現在、年1回発行しております。

第1号から第 138 号までは、環境課窓口と区立図書館にて閲覧できます。

なお、第 131 号からは、区ホームページでもご覧になれます。

### ▼区ホームページ URL

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s103/5897.html>

### ▼二次元コード



杉並区環境課温暖化対策係